

# 経営情報学部 総合経営学科

## 履修の手引と手続き

1. ディプロマ・ポリシー（Ⅰ）…………… 118
2. 紀尾井町キャンパス履修の手引と手続き（Ⅱ～Ⅻ）…………… 119
3. 東金キャンパス履修の手引と手続き（Ⅱ～Ⅻ）…………… 139

## 履修の手引と手続き

### I ディプロマ・ポリシー（学位授与方針）

経営情報学部は、以下に掲げる能力を有し、かつ所定の単位を修得した学生に、「学士（経営情報）」の学位を授与する。

1. 経営全般に関する幅広い知識と、一人ひとりの進路を踏まえた特定の専門分野についての深い知識・技能を身につけている。
2. 情報通信技術（ICT）の活用を通じて「経営」領域で分析ができ、経営活動に資する能力を身につけている。
3. 高い状況把握力と課題発見力に拠って企業、行政、教育現場等の諸課題を認識し、それらを経営資源である「ヒト・モノ・カネ・情報」を活用して解決できる計画力と実行力を身につけている。
4. 「国際人」として必要な語学力と教養に裏付けられた発信力、傾聴力、想像力を培い、価値観の異なる異文化の人々とのコミュニケーション力を身につけている。
5. 倫理観、規律性、柔軟性、主体性を併せ持ち、他者への働きかけ力をもってチームで行動するためのリーダーシップを身につけている。
6. 自身の健全な心を維持できるストレスコントロール力を養い、未来社会へ逞しく挑戦できる社会人基礎力を身につけている。

# 経営情報学部 総合経営学科

## <紀尾井町キャンパス>

### 履修の手引と手続き

#### <小 目>

II	カリキュラム・ポリシー	120
III	授業科目について	121
IV	授業科目の単位と認定	121
V	卒業に必要な単位について	121
VI	進級条件及び各学年における標準的な修得単位	122
VII	授業科目の学年配当と履修すべき単位数	124
	1. 学科共通科目群	124
	2. キャリア形成科目群	127
	3. 専門基礎科目群	128
	4. 専門科目群	131
VIII	履修申請について	134
IX	再履修について	134
X	試験について	134
XI	授業科目の単位認定と進級及び留年	136
XII	成績発表	137

## 履修の手引と手続き

### II カリキュラム・ポリシー（教育課程編成・実施方針）

経営情報学部総合経営学科グローバル経営情報コースでは、教育研究上の目的、及び学位授与方針に基づき、国際的に有為なマネジメント力のある人材を育成するため、以下に掲げる方針に則って、カリキュラム（教育課程）を編成する。

1. 学科共通科目群では、経済社会のグローバル化と情報化の発展に即応できる能力、及び多様な価値観を互いに認め合う等の人間形成の基盤となる能力を身につけるため、英語を中核とする語学系科目、経営学と情報リテラシーの基礎科目、及び一般教養科目を配置する。
2. キャリア形成科目群では、大学での学修に必要な能動的な学び、社会で求められる倫理観、社会人基礎力、及びキャリア形成に資する能力を身につけるため、ビジネスキャリア関連科目やインターンシップに関する科目を配置する。
3. 専門基礎科目群では、経営学関連科目を中核とする専門分野の基礎知識を身につけるため、マーケティング、経済学、会計学、情報科学等に関わる総論的または基礎的な科目を配置する。
4. 専門科目群Ⅰでは、専門基礎科目群で培った知識を土台に、一人ひとりの学修目標や進路に関わる知識・技能を深め、経済社会のグローバル化に対応する専門性の高い経営学、マーケティング、経済学、会計学、情報科学、法律学等、幅広い分野の専門科目を配置する。
5. 専門科目群Ⅱでは、獲得した知識・技能・態度を統合し、主体的・協働的に諸課題に取り組む能力を高めるため、ゼミナールやプロジェクト研究等を配置する。
6. 学位授与方針、及び学生一人ひとりの進路に、より対応するため、グローバル経営情報コース（紀尾井町キャンパス）は、2年次より以下の4分野を設置する。

#### ① グローバル・コミュニケーション分野

「国際人」として必要な言語能力、異文化理解を基礎として、様々なビジネス分野で必要なコミュニケーション力を鍛錬するためのカリキュラムを設置する。

#### ② 経営分野

現代の経営を理解するために必要な経営学、経済学、マーケティング、ロジスティクスを学ぶとともに、企業などの組織の経営を担う力を身につけるためのカリキュラムを設置する。

#### ③ 会計分野

ビジネスの共通言語である会計知識を中心に、今日の経済社会の様々な事象を理解するために必要とされるファイナンスや企業関連の諸法律も擁したカリキュラムを設置する。

#### ④ 情報マネジメント分野

Society5.0時代を生きる上で必須となる ICT 関連技術・知識を基礎から学び、企業などの組織の情報戦略を担う力を身につけるためのカリキュラムを設置する。

### Ⅲ 授業科目について

経営情報学部総合経営学科における授業科目は学科共通科目群、キャリア形成科目群、専門基礎科目群、専門科目群から構成されている。

また東金キャンパス、東京紀尾井町キャンパスで開講される科目ならびに履修方法については、オリエンテーション等を通じて指示する。原則として、コース（キャンパス）の変更はできない。

### Ⅳ 授業科目の単位と認定

本学部では単位制を採用している。単位制とは、ひとつひとつの授業科目に一定の基準により定められた単位があり、履修した授業科目に対して、試験もしくはその他の方法により学習評価をしたうえで、その単位を認定する制度である。

単位の認定は、S・A・B・Cの4段階評価により行い、D・E・F・T・Zの評価は単位を認定しないものとする。なお、N・Hは単位振替により単位を認定したことを示す。成績の評価については、「Ⅶ 成績発表」の項を参照すること。

### Ⅴ 卒業に必要な単位について

卒業に必要な単位は、次の表に示すとおりである。

系 列	学部・学科	経営情報学部 総合経営学科
	最低修得単位数	
学科共通科目群Ⅰ（語学）		8
学科共通科目群Ⅱ（経営情報）		10
学科共通科目群Ⅳ（教養）		10
キャリア形成科目群		6 (外国人留学生・帰国生は4)
専門基礎科目群		16
専門科目群Ⅰ		24
専門科目群Ⅱ（ゼミ研究・実践）		8
上記の科目群の最低修得単位数以外に選択必修。30単位までを上限に他学部の科目を卒業単位に含めることができる。		42 (外国人留学生・帰国生は44)
合計		124

\*他学部の科目のうち、日本語プロジェクト学習 a, bは卒業単位に含まれない。

## VI 進級条件及び各学年における標準的な修得単位

### 1. 進級条件

各年次で進級に必要な最低単位数は、次のとおりである。

#### (1) 1年次から2年次：

- ① 1年次の必修科目である経営情報基礎論 a・b, ICT 演習 a, 情報セキュリティ a, 経営学総論, ビジネスキャリア I a・I b, および学科共通科目群 I の選択必修科目である Fundamentals of English I, Oral Fluency I, English for Advanced Studies a・b, English for Specific Purposes a・b (外国人留学生・帰国生は, 日本語中上級科目, 日本語上級科目) のうち4単位
- ② 総修得単位数が16単位

#### (2) 2年次から3年次：

- ① 1, 2年次の必修科目である経営情報基礎論 a・b, ICT 演習 a, 情報セキュリティ a, 経営学総論, ビジネスキャリア I a・I b, II a・II b, および学科共通科目群 I の選択必修科目である Fundamentals of English I, Oral Fluency I, English for Advanced Studies a・b・c, English for Specific Purposes a・b・c (外国人留学生・帰国生は, 日本語中上級科目, 日本語上級科目) のうち14単位
- ② 総修得単位数が50単位

※但し, ①の条件を満たし総修得単位数が40単位~49単位の者については, 進級判定の対象となり, 教授会で審議の結果, 許可された学生のみ進級することができる。

#### (3) 3年次から4年次：82単位

### 2. 各学年における標準的な修得単位

各学年における授業科目および修得単位数の目安は, 次の表に示すとおりである。

また, 各学期の履修登録については30単位までとし, 年間の履修登録については42単位以下とする。GPA が3.00以上の者には, アドバイザーに相談したうえで最大49単位まで履修することを認めることがある。

各学期の GPA が1.50未満の場合には, アドバイザーの履修指導を受けなければならない。

学年	単位数の目安	
1 年次	学科共通科目群 I (語学) Fundamentals of English I, Oral Fluency I, English for Advanced Studies a・b, English for Specific Purposes a・b (選択必修), 日本語中上級科目・日本語上級科目 (外国人留学生・帰国生選択必修) 学科共通科目群 II (経営情報) 経営情報基礎論 a (必修), 経営情報基礎論 b (必修) ICT 演習 a (必修), 情報セキュリティ a (必修) 経営学総論 (必修) 学科共通科目群 IV (教養) キャリア形成科目群 ビジネスキャリア I a (必修), ビジネスキャリア I b (必修)	2 科目 4 単位  5 科目 10 単位  5 科目 10 単位 2 科目 2 単位
修得単位数 35~40 単位	専門基礎科目群 ※上記指定された科目群より修得した科目以外に 18 単位	6 科目 12 単位
2 年次	学科共通科目群 I (語学) 英語科目, 英語以外の外国語科目 (選択必修), 日本語中上級科目・日本語上級科目 (外国人留学生・帰国生選択必修) キャリア形成科目群 ビジネスキャリア II a (必修), ビジネスキャリア II b (必修) 専門基礎科目群 専門科目群 I	2 科目 4 単位  2 科目 2 単位  2 科目 4 単位 5 科目 10 単位
修得単位数 35~40 単位	※上記指定された科目群より修得した科目以外に 18 単位	
3 年次	キャリア形成科目群 専門科目群 I 専門科目群 II (ゼミ研究・実践)	1 科目 2 単位 7 科目 14 単位 2 科目 4 単位
修得単位数 35~40 単位	※上記指定された科目群より修得した科目以外に 18 単位	
4 年次	専門科目群 II (ゼミ研究・実践)	2 科目 4 単位
修得単位数 4~10 単位	※上記指定された科目群より修得した科目以外に 6 単位	
卒業 修得単位数 124 単位		

## Ⅶ 授業科目の学年配当と履修すべき単位数

### 1. 学科共通科目群

学科共通科目群は、学科共通科目群Ⅰ（語学）、学科共通科目群Ⅱ（経営情報）、学科共通科目群Ⅲ（メディア）、学科共通科目群Ⅳ（教養）、学科共通科目群Ⅴ（スポーツ科学）の五系列に分かれている。それらの各系列の中から「Ⅴ. 卒業に必要な単位について」で示された所定の単位以上を修得するために、科目を履修し、卒業要件を満たさなければならない。

#### (1) 学科共通科目群Ⅰ（語学）

科目群	科目名	配当年次	単位数			最低修得単位数	備考
			必修	選択	自由		
学科共通科目群Ⅰ（語学）	Fundamentals of English I	1		2		8 単位	学科共通科目群Ⅰのうち、Fundamentals of English I, Oral Fluency I, English for Advanced Studies a・b・c, English for Specific Purposes a・b・cより4単位以上を含み8単位以上修得すること。なお、「English for Advanced Studies a」から「English for Specific Purposes c」までの6科目は、優れた英語力を有すると認められた者のみが履修できる科目である。
	Oral Fluency I	1		2			
	Fundamentals of English II	1・2		2			
	Oral Fluency II	1・2		2			
	日本語中上級 a（総合）	1・2・3・4		2			
	日本語中上級 b（受容）	1・2・3・4		2			
	日本語中上級 c（口頭産出）	1・2・3・4		2			外国人留学生・帰国生は、日本語中上級科目（日本語中上級 a・b・c・d・e・f・g）、日本語上級科目（日本語上級 a・b・c・d・e）を第1外国語として8単位以上選択必修。
	日本語中上級 d（筆記産出）	1・2・3・4		2			
	日本語中上級 e（言語知識）	1・2・3・4		2			
	日本語中上級 f（聴解）	1・2・3・4		2			
	日本語中上級 g（読解）	1・2・3・4		2			
	日本語上級 a（総合）	1・2・3・4		2			
	日本語上級 b（映像作品の日本語）	1・2・3・4		2			
	日本語上級 c（現代文章を読む）	1・2・3・4		2			
	日本語上級 d（口頭発表）	1・2・3・4		2			
	日本語上級 e（論文作成）	1・2・3・4		2			
	Basic Writing Skills	1		2			
	TOEIC：Vocabulary I	1・2		2			
Spoken Business English	3・4		2				
Business English Writing	3・4		2				
フランス語ⅠA	1		2		*の科目は指定された交換留学生・短期留学生のみ履修できる。		
フランス語ⅠB	1		2				
フランス語Ⅱ	2・3		2				



科目群	科目名	配当年次	単位数			最低修得単位数	備考
			必修	選択	自由		
学科共通科目群 I (語学)	中国語 I A	1		2		8 単位	
	中国語 I B	1		2			
	中国語 II	2・3		2			
	韓国語 I A	1		2			
	韓国語 I B	1		2			
	韓国語 II	2・3		2			
	Basic Japanese a *	1・2・3・4		4			
	Basic Japanese b *	1・2・3・4		4			
	Basic Japanese c *	1・2・3・4		4			
	Basic Japanese d *	1・2・3・4		4			
	Japanese Language Proficiency Test a (Knowledge)*	1・2・3・4		2			
	Japanese Language Proficiency Test b (Comprehension)*	1・2・3・4		2			
	Intermediate Japanese a *	1・2・3・4		4			
Intermediate Japanese b *	1・2・3・4		4				

〔備考〕

- (1) 学科共通科目群 I では第一外国語として英語（外国人留学生・帰国生徒は日本語）を学ぶ。うち Fundamentals of English I, Oral Fluency I, English for Advanced Studies a・b・c, English for Specific Purposes a・b・c（日本語は日本語中上級科目・日本語上級科目）は選択必修科目である。
- (2) Fundamentals of English II, Oral Fluency II を履修するためにはそれぞれの I を修得していること。
- (3) 英語選択科目を履修する場合は、年度末に実施する英語プレズメントテストを受けること。
- (4) 第 2 外国語において I B を履修するには I A を修得していなければならない。

## (2) 学科共通科目群Ⅱ（経営情報）

科目群	科目名	配当年次	単位数			最低修得単位数	備考
			必修	選択	自由		
学科共通科目群Ⅱ (経営情報)	経営情報基礎論 a	1	2			10単位	学科共通科目群Ⅱのうち、必修科目を含み、10単位以上修得すること。
	経営情報基礎論 b	1	2				
	ICT 演習 a	1	2				
	ICT 演習 b	1		2			
	情報セキュリティ a	1	2				
	経営学総論	1	2				

## (3) 学科共通科目群Ⅲ（メディア）

科目群	科目名	配当年次	単位数			最低修得単位数	備考
			必修	選択	自由		
学科共通科目群Ⅲ (メディア)	メディア概論 A 1	1		2			
	メディア概論 A 2	1		2			
	メディア概論 B	1・2		2			
	メディア概論 C	1・2		2			
	メディア概論 D	1・2		2			
	メディア概論 E	1・2		2			

(4) 学科共通科目群Ⅳ（教養）

科目群	科目名	配当年次	単位数			最低修得単位数	備考
			必修	選択	自由		
学科共通科目群Ⅳ（教養）	法律学概論	1・2		2		10単位	学科共通科目群Ⅳのうち、10単位以上選択必修。
	日本国憲法	1・2		2			
	政治学	2・3		2			
	心理学	1・2		2			
	データ分析の基礎 （線形代数）	1・2		2			
	データ分析の基礎 （解析学）	1・2		2			
	基礎の数学	1・2		2			
	自然科学概論	1・2		2			
	宗教学概論	1・2・3		2			
	異文化適応論	1・2		2			
	情報表現技法	1・2		2			
	テレビ番組史	1・2		2			
	映像研究	2・3		2			
情報社会論	1		2				

2. キャリア形成科目群

科目群	科目名	配当年次	単位数			最低修得単位数	備考
			必修	選択	自由		
キャリア形成科目群	ビジネスキャリアⅠ a	1	1			6単位	キャリア形成科目群のうち、必修科目を含み6単位以上修得すること。外国人留学生・帰国生は、必修科目を含み4単位以上を修得すること。
	ビジネスキャリアⅠ b	1	1				
	ビジネスキャリアⅡ a	2	1				
	ビジネスキャリアⅡ b	2	1				
	ビジネスキャリアⅢ a	3		1			
	ビジネスキャリアⅢ b	3		1			
	インターンシップ	2・3		2			
	海外ビジネス研修Ⅰ	1・2		2			
	海外ビジネス研修Ⅱ	1・2		2			
	海外ビジネス研修Ⅲ	2・3		2			
	海外ビジネス研修Ⅳ	2・3		2			

### 3. 専門基礎科目群, 専門科目群Ⅰ, 専門科目群Ⅱ (ゼミ研究・実践)

ディプロマ・ポリシーに則り、「学士(経営情報)」の学位を授与されるうえで必要な専門領域に関連する科目を、専門基礎科目群, 専門科目群Ⅰ, 専門科目群Ⅱ(ゼミ研究・実践)にて開講する。各学生は最終的には自身が選択したゼミナールや分野に属する科目を履修して自身の専門性の確立を図ることとなるが、一方で各分野が設けた推奨科目も卒業までに可能な限り履修し、「学士(経営情報)」を得るにふさわしい幅広い経営に関連する知識を身に付ける必要もある。専門性の深さと広さの両立を企図した学修計画を立てることが求められる。

#### 東京紀尾井町キャンパス<グローバル経営情報コース>

経営学や会計学, 流通・マーケティング, 消費者行動分析はもちろん, 企業情報システムや情報ネットワーク, メディア情報, 英語や諸外国の語学や国際ビジネスなどの科目が配置されている。日本の政治経済の中心地である東京都千代田区で経営, 会計, 情報マネジメント, グローバル・コミュニケーションの4つの分野を広く学ぶ。これからの国際社会に不可欠な教養・知識を身に付けるとともに, 百年ともいわれる人生を実り豊かに過ごすために必要な社会人基礎力を鍛錬する。

##### (1) 経営分野

現代の経営を理解し, 企業などの組織の経営を担うことのできる人材を育成する。経営学, 経済学, マーケティング, ロジスティクスなどについて実践的かつ専門的な知識を学び, グローバルな発想の下, 具体的な諸問題を解決することができるビジネスパーソン, ビジネスリーダーの育成を図る。

##### (2) 会計分野

会計はビジネスの共通言語と言われ, ファイナンスは経済社会の動きを理解する上で必要不可欠な知識である。これらの修得は現代の社会から強く要請されている「経済社会の行動原理に対する理解と議論する力」の獲得に大きく資するものであると考える。

本分野では, まず企業の企画・財務・経理の知識と国際的感覚を有する会計ゼネラリストの育成を目指し, さらに公認会計士や税理士などの会計スペシャリストの育成をも視野に入れ, 会計・財務・ファイナンスの基礎から応用まで, 幅広い知識を修得することを目標とする。

##### (3) 情報マネジメント分野

SNSなどの情報通信技術(ICT)を活用して, 企業の情報戦略を担うことができる能力を養う。企業経営の根幹をなす情報セキュリティについて学び, 専門家として活躍することを目指すこともできる。また, ビッグデータの活用法やAIを援用した様々なサービスについて, その原理と実践について深く学ぶことも可能である。

##### (4) グローバル・コミュニケーション分野

この分野では, グローバル的な視野を備え, 国際社会で柔軟に対応するために, 異文化コミュニケーションの基礎知識を修得する。異なる文化背景を持つ人間と協働するための言語や非言語コミュニケーション能力を身に付ける科目だけではなく, 情報化社会に急増したロボット・AI

を介したコミュニケーション能力や激変時代に対応できる非対面コミュニケーション力を養う関連科目も配置する。さらに多文化環境でのリーダーシップ、動機付け、意思決定、チームワークなどの知識を学修していく。

※コース推奨科目

それぞれのキャンパスにおいて各コースに分かれて学習する上で、1・2・3年次に修得しておくことが望ましい科目をコース推奨科目としている。学部必修科目と併せて履修計画を立ててもらいたい。科目の詳細については、オリエンテーション、「ビジネスキャリアⅠ」の授業で説明する。以下にコース推奨科目の内、1・2年生科目の一部を紹介する。

<東京紀尾井町キャンパス>

(1) 経営分野	(2) 会計分野	(3) 情報マネジメント分野	(4) グローバルコミュニケーション分野
経営学総論 マーケティング論 消費生活と行政	初級簿記 中級簿記 会計学Ⅰ	情報ネットワーク論 情報システム論 情報セキュリティb	異文化コミュニケーション論 グローバル・コミュニケーション総論

科目群	科目名	配当年次	単位数			最低修得単位数	備考
			必修	選択	自由		
専門基礎科目群	企業と社会	1		2		16単位	専門基礎科目群のうち、16単位以上をを修得すること。
	デジタルマーケティング	2・3		2			
	マーケティング論	1・2		2			
	マーケティングリサーチ	1・2・3		2			
	流通論	2・3		2			
	ロジスティクス概論	1・2		2			
	初級簿記	1・2		2			
	中級簿記	1・2		2			
	会計学Ⅰ	1・2		2			
	会計学Ⅱ	1・2		2			
	消費生活と行政	1・2		2			
	情報システム論	2		2			
	情報化戦略とマネジメント a	1・2		2			
	情報学演習 a	1・2		2			
	情報学演習 b	1・2		2			
	情報理論	1		2			
	情報ネットワーク論	2		2			
	ファイナンスの基礎Ⅰ	1・2		2			
	ファイナンスの基礎Ⅱ	1・2		2			
	ミクロ経済学の基礎	1		2			
マクロ経済学の基礎	1		2				
異文化コミュニケーション論	1・2		2				
グローバル・コミュニケーション総論	1		2				

#### 4. 専門科目群

##### (1) 専門科目群 I

科目群	科目名	配当年次	単位数			最低修得単位数	備考
			必修	選択	自由		
専門科目群 I	経営戦略論	2・3		2		24単位	専門科目群 I のうち、24単位以上を修得すること。
	人事労務管理論	2・3		2			
	経営組織論	2・3		2			
	情報化戦略とマネジメント b	2		2			
	ビジネスデータ分析 a (Excel)	2・3		2			
	消費者行動論	3・4		2			
	国際マーケティング論	2・3・4		2			
	管理会計特論	3・4		2			
	原価計算論 I	2・3		2			
	原価計算論 II	2・3		2			
	コーポレートファイナンス	3・4		2			
	財務会計特論	3・4		2			
	金融論	2・3		2			
	ファイナンシャルプランニング論 a	2・3		2			
	ファイナンシャルプランニング論 b	2・3		2			
	データベース	2		2			
	アルゴリズム a	2		2			
	アルゴリズム b	2		2			
	プログラミング a	2		2			
	プログラミング b	2・3		2			
	モデル化とシミュレーション	3		2			
	民法 a	2・3		2			
民法 b	2・3		2				
商法 a	2・3		2				
商法 b	2・3		2				
会社法 a	2・3・4		2				
会社法 b	2・3・4		2				

科目群	科目名	配当年次	単位数			最低修得単位数	備考
			必修	選択	自由		
専門科目群 I	税法 a	3・4		2		24単位	
	税法 b	3・4		2			
	Business and Society	3・4		2			
	Introduction to Global Management	1・2・3		2			
	Strategic Management	3・4		2			
	統計学	2・3		2			
	財務諸表論 a	2・3		2			
	財務諸表論 b	2・3		2			
	財務分析 b	2・3		2			
	財務分析 a	2・3		2			
	インベストメントファイナンス	3・4		2			
	ファイナンス特論	3・4		2			
	情報セキュリティ b	2		2			
	異文化組織マネジメント	2・3		2			
	コミュニケーション実践	2・3		2			
	色彩学	2・3		2			
	異文化理解研究	3・4		2			
	組織行動論	2・3		2			
	国際ロジスティクス論	2・3		2			
	マーケティングサイエンス	3・4		2			
	ソフトウェア会計	3・4		2			
	ゲーム理論	2・3		2			
	データマイニング	2・3		2			
	プログラミング c	2・3		2			
	情報学演習 c	3		2			
	人工知能とビッグデータ	3		2			
	行動経済学	3・4		2			
ICT プロジェクトマネジメント	3・4		2				
ビジネスデータ分析 b (R)	3・4		2				



## (2) 専門科目群Ⅱ（ゼミ研究・実践）

科目群	科目名	配当年次	単位数			最低修得単位数	備考
			必修	選択	自由		
専門科目群Ⅱ (ゼミ研究・実践)	ゼミナール a	3	2			8 単位	専門科目群Ⅱのうち、必修科目 6 単位を含み 8 単位以上を修得すること。ゼミナール d あるいはゼミナール e のいずれか 1 科目 2 単位を必ず修得すること。ゼミナール a から e は、同じ学期に 2 つ以上の科目を同時に履修することはできない。* の科目は指定された学生のみ履修できる。
	ゼミナール b	3	2				
	ゼミナール c	3・4	2				
	ゼミナール d	3・4		2			
	ゼミナール e *	3		2			
	プロジェクト研究 a	1・2・3・4		2			
	プロジェクト研究 b	1・2・3・4		2			

## VIII 履修申請について

各年次において履修しようとする科目は、指定された期日に、所定の方法（オリエンテーションで説明する）で履修申請をしなければならない。履修申請は、希望する授業を受講し、その単位を取得するための重要な手続きである。進級や卒業に影響をおよぼすこともあるので、以下の注意事項を厳守し、慎重に履修申請をすること。

- (1) 履修申請をしていない（できていない）科目は、受講しても単位が認められない場合もある。履修を最終的に確定する前に、時間割表をもう一度確認するなど、細心の注意を払うこと。なお、履修照合期間には、希望どおり登録されているかを必ず確認すること。
- (2) 履修を計画する際には、1年間の受講計画をたてること。また、進級や卒業に必要な単位の算定を慎重に行い、修得単位数が不足しないように万全を期すこと。
- (3) 同一の時限に2つ以上の科目を履修することはできない。
- (4) 一度単位を修得した科目は、再度履修することはできない。
- (5) Web履修入力の際、一定の時間を経過するとタイムアウトとなる可能性があるため、登録する講義や時間割の下書き等の準備をしてから入力すること。
- (6) 履修申請は、指定された期間以外に手続することができない。入力期限を厳守すること。
- (7) 履修や留学等についての疑問・質問等は、それぞれのアドバイザーもしくは、学部事務室に相談すること。

## IX 再履修について

履修した科目の単位が取得できなかった場合は、次年度または次学期において再び履修することができる。

## X 試験について

### 1. 定期試験および臨時試験

- (1) 試験は、定期試験と臨時試験があり、定期試験は原則として学期末あるいは学年末に行い、臨時試験は担当教員の判断により適宜行われる。
- (2) いずれの授業科目も授業時数の1/3以上欠席した場合には、原則として当該授業科目の受験資格を失う。欠席と公欠の詳細については、本学生便覧の「学生生活のしおり 授業関係」ページに記載されているので、必ず確認すること。なお、就職活動に伴う欠席については、本学部では以下の通りに扱う。

#### ・就職活動に伴う欠席

就職活動のための授業の欠席は、公欠にはならない。欠席をどのように配慮するかは各授業担当教員の判断に任されているが、原則として①就職試験、②選考の必須条件となっている会社説明会、③正式な内定式、がその配慮の対象となりうる。また、欠席、公欠、及び就職活動に伴う欠席を含めて総授業回数の半分以上を欠席した場合は、原則として当

該授業科目の受験資格を失う。

手続きの方法は、就職活動証明書（出席証明書）の所定欄に企業等の採用担当者から署名頂いたものを就職センターに提出し、その後、就職センターで検印を受けた授業欠席届を各授業担当教員に提出する。なお、就職活動証明書（出席証明書）および授業欠席届は JIU Portal からダウンロードするか、就職センター窓口で受け取ること。

- (3) 試験の時間割は掲示・大学 Web サイトにより連絡する。
- (4) 授業科目によっては論文（レポート）提出によって試験に代える場合がある。

## 2. 追 試 験

- (1) 追試験は、やむを得ない事情によって定期試験を受験できなかった者に対し、原則として学期末または学年末に実施する。
- (2) 追試験を希望する者は、正当な事由を証明する書面をもって速やかに授業担当教員に届け出ること。
- (3) 追試験は、成績表の当該科目に「T」の表示がなされた場合に限り受験することができる。

なお、追試験は、履修（再履修を含む）した年度に限り受験することができる。

- (4) 追試験を受験しようとする者は、「追試験受験願」を学部事務室に提出しなければならない。

なお、追試験の受験料は、1科目につき200円である。

## 3. 再 試 験

- (1) 再試験は、原則として学期末または学年末に実施する。ただし、授業科目によっては再試験を行わない場合もある。
- (2) 定期試験の結果、不合格（この場合成績表の当該科目に「F」の表示がなされる）となった授業科目のある者は、当該授業科目の担当教員が再試験を行なう場合、受験することができる。

なお、再試験は、履修（再履修を含む）した年度に限り受験することができる。

- (3) 再試験の受験を許可された者は、「再試験受験願」を学部事務室に提出しなければならない。

なお、再試験の受験料は、1科目につき1,000円である。

## 4. 試験に関する注意

### 1. 通 則

- (1) 試験場内では、すべて監督者の指示に従わなければならない。なお、監督者の指示に従わない者には、退場を命ずることがある。
- (2) 試験場内では、筆記用具・持込みを許された資料以外のものは、すべて監督者の指定する場所におかななければならない。
- (3) 受験者は学生証および受験許可証（追・再試験の場合）を、机の上の見やすい場所に提示しておかななければならない。

- (4) 試験開始から20分を経過した後は入室・受験を認めない。
- (5) 試験開始から25分を経過するまでは退場を認めない。なお、監督者が退場を命ずる場合はこの限りではない。
- (6) 受験者は、試験中監督者の許可を得ないで試験場を出てはならない。
- (7) 試験の行われる学期の授業料未納の者・授業時数の1/3以上欠席した者は、試験を受けることができない。
- (8) 病気・事故その他正当な事由によって受験できなかった者は、診断書・事故証明その他正当な事由を証明する書面を添えて、遅滞なく授業担当教員に届出なければならない。

## 2. 試験における不正行為の懲戒について

- (1) 不正行為をした者については、学則第68条により罰せられ、更に年度における当該授業科目の単位の認定を行わない。  
また、不正行為を行った学期に履修している全ての科目の単位を認定しない場合がある。
- (2) 不正行為のあった者の懲戒処分については、教授会の審議を経て、学長が決定する。
- (3) 学長はその旨保証人を召喚して通知すると共に学内にこれを公示する。

## 3. 試験における不正行為とは

- (1) 他の人から答えを教わることや、教えること等、いわゆるカンニング及びその手助けをすること。
- (2) 本人以外の名前・学籍番号で受験すること。
- (3) 許可されていないものを使用すること。
- (4) 「解答はじめ」の前、及び「解答おわり」の後に、試験監督の指示に従わず、解答を続けること。
- (5) その他、試験監督の指示に従わないこと。
- (6) 論文・レポート等における、剽窃行為をすること。

※ 剽窃行為…引用の形式をとらず、著作権者に無断で著作物を複製・転載する行為。  
学術上のルール・モラルに反する行為であり、著作権法に違反する行為。

# XI 授業科目の単位認定と進級及び留年

## 1. 単位認定

- (1) 各科目の成績は、シラバス記載の成績評価基準に基づき総合的に判定する。
- (2) 100点を満点とし、60点以上をもって単位修得（合格）とする。  
その評価は次に従う。

評価	得点分布
S	100点～90点
A	89点～80点
B	79点～70点
C	69点～60点

- (3) 再試験における評価は60点を合格とし、79点を上限とする。
- (4) 再試験における成績評価の最高点は、定期試験合格者の成績評価の最低点を上回らないものとする。

## 2. 進級及び留年

- (1) 各年次への進級については、「VI 進級条件及び各学年における標準的な修得単位1. 進級条件」に示された進級条件を満たした場合に可能となる。
- (2) 4年次で卒業要件を満たさない者は留年とする。

## XII 成績発表

- (1) 成績発表は、アドバイザーまたはゼミナール担当教員より本人に成績表を交付するので、学部事務室の指示に従って必ず交付を受けること。その際、学生証を提示すること。  
なお、指定された期日以外には交付しない。
- (2) 成績の評価は次の記号で表わし、60点以上をもって単位取得（合格）とする。
- | （合格）      | （正規試験不合格）       | （追・再試験不合格） |
|-----------|-----------------|------------|
| S：100～90点 | F：59点以下（再試験受験可） | D：59点以下    |
| A：89～80点  | T：追試験受験可        | E：未受験      |
| B：79～70点  | Z：追・再試験の受験資格なし  |            |
| C：69～60点  | 評価不能            |            |
- (3) 成績表には、学習成果を総合的に推し量る指標 GPA（Grade Point Average）を表記している。  
詳細については、Web 履修登録画面にて確認すること。
- (4) 成績についての疑問、質問等は成績表交付日のみ受け付けるので、学部事務室に問い合わせること。
- (5) 事故、病気等により指定日に成績表の交付を受けられない場合は、代理人を定め、成績表の交付を受けること。その場合は代理人学生証および委任状を持参すること。



# 経営情報学部 総合経営学科

## <東金キャンパス>

### 履修の手引と手続き

#### <小 目>

II	カリキュラム・ポリシー	140
III	授業科目について	141
IV	授業科目の単位と認定	141
V	卒業に必要な単位について	141
VI	進級条件及び各学年における標準的な修得単位	142
VII	授業科目の学年配当と履修すべき単位数	144
	1. 学科共通科目群	144
	2. キャリア形成科目群	149
	3. 専門基礎科目群	149
	4. 専門科目群	152
VIII	履修申請について	157
IX	再履修について	157
X	試験について	157
XI	授業科目の単位認定と進級及び留年	159
XII	成績発表	160

## 履修の手引と手続き

### II カリキュラム・ポリシー（教育課程編成・実施方針）

経営情報学部総合経営学科スポーツ・公共マネジメントコースでは、教育研究上の目的、及び学位授与方針に基づき、国際的な視野に立ちながら「地域の多様性」を尊重し、多様な学問分野を融合させて実社会の課題を解決できるマネジメント力のある人材を育成するために、以下の掲げる方針に則って、カリキュラム（教育課程）を編成する。

1. 学科共通科目群では、経済社会のグローバル化と情報化の発展に即応できる能力、及び地域の多様性や他者の多様な価値観を互いに認め合う等の人間力の基盤となる能力を身につけるため、英語を中核とする語学系科目、情報リテラシーの基礎科目、一般教養科目及びスポーツ実技科目を配置する。
2. キャリア形成科目群では、大学での学修に必要な主体的な学び、社会で求められる倫理観、課題を発見する力や課題を解決し解決する過程を考えることができる社会人基礎力、及びキャリア形成に資する能力を身につけるため、ビジネスキャリア関連科目やインターンシップに関する科目を配置する。
3. 専門基礎科目群では、経営学関連科目を中核とする専門分野の基礎知識を身につけるため、経営学、マーケティング、経済学、会計学、情報科学、スポーツマネジメント、スポーツ・健康科学及び環境学等に関わる総論的または基礎的な科目を配置する。
4. 専門科目群Ⅰでは、専門基礎科目群で培った知識を土台に、一人ひとりの学修目標や進路に関わる知識・技能を深め、経済社会のグローバル化に対応する専門性の高い経営学、マーケティング、経済学、会計学、情報科学、法律学、スポーツマネジメント、スポーツ・健康科学及び環境学等、幅広い分野の専門科目を配置する。
5. 専門科目群Ⅱでは、獲得した知識・技能・態度を統合し、多様な人々とともに目標に向けて協力する力や主体的・協働的に諸課題に取り組む能力を高めるため、ゼミナールやプロジェクト研究等を配置する。
6. 専門科目群Ⅲでは、専門的知識に裏打ちされた授業力と指導力、マネジメント力を兼ね備えた教員（保健体育科、社会科及び公民科）を育成するために、教職に関する科目を配置する。
7. 学位授与方針に対応するため、2年次より以下の3つの分野を設置する。

#### ① グローバルビジネス分野

ビジネスのグローバル化に対応するために経営・マーケティング・会計・情報科学分野の基礎を学び、国内外で活躍するために必要な専門知識を総合的に身につけるカリキュラムを設置する。



## ② スポーツマネジメント分野

スポーツ・健康科学やトレーニング理論の基礎となる科目からスポーツの実施や指導、健康の維持・増進、生涯スポーツ社会の実現に関する知識や方法を正しく理解するとともに、それらを企業や地域、多様な人々の生活に応用し、マネジメントできる人材を育成するためのカリキュラムを設置する。

## ③ 地域公共マネジメント分野

国や地域の課題を経営的な視点で捉え、情報・法律・経済・経営・環境などの多様な学問分野の学びから獲得した知識・技能・態度を統合し、雇用問題、福祉、地方自治、環境問題などの多様な課題の解決のための知識や判断方法を身につけるとともに、それらに積極的に多様な人々と協働してよりよい公共サービスを実現できる人材を育成するためのカリキュラムを設置する。

## Ⅲ 授業科目について

経営情報学部総合経営学科における授業科目は学科共通科目群、キャリア形成科目群、専門基礎科目群、専門科目群から構成されている。

また開講される科目ならびに履修方法については、オリエンテーション等を通じて指示する。原則として、コース（キャンパス）の変更はできない。

## Ⅳ 授業科目の単位と認定

本学部では単位制を採用している。単位制とは、ひとつひとつの授業科目に一定の基準により定められた単位があり、履修した授業科目に対して、試験もしくはその他の方法により学習評価をしたうえで、その単位を認定する制度である。

単位の認定は、S・A・B・Cの4段階評価により行い、D・E・F・T・Zの評価は単位を認定しないものとする。なお、N・Hは単位振替により単位を認定したことを示す。成績の評価については、「Ⅺ 成績発表」の項を参照すること。

## Ⅴ 卒業に必要な単位について

卒業に必要な単位は、次の表に示すとおりである。

系 列	学部・学科	経営情報学部 総合経営学科
	最低修得単位数	
学科共通科目群Ⅰ（語学）		8
学科共通科目群Ⅱ（経営情報）		10
学科共通科目群Ⅳ（教養）		10
キャリア形成科目群		6 (外国人留学生・帰国生は4)
専門基礎科目群		16
専門科目群Ⅰ		24
専門科目群Ⅱ（ゼミ研究・実践）		8
上記の科目群の最低修得単位数以外に選択必修。30単位までを上限に他学部の科目を卒業単位に含めることができる。		42 (外国人留学生・帰国生は44)
合計		124

\* 専門科目群Ⅲ（教職関連）の社会科教育法Ⅰ～Ⅳ，公民科教育法Ⅰ～Ⅱ，保健体育科教育法Ⅰ～Ⅳは，それぞれの教科の教職課程を履修している者のみ履修することができ，卒業単位に含めることができる。それ以外の専門科目群Ⅲ（教職関連）の科目は，卒業単位に含まれない。

\* 他学部の科目のうち，日本語プロジェクト学習 a， b は卒業単位に含まれない。

## Ⅵ 進級条件及び各学年における標準的な修得単位

### 1. 進級条件

各年次で進級に必要な最低単位数は，次のとおりである。

#### (1) 1年次から2年次：

- ① 1年次の必修科目である経営情報基礎論 a・b，ICT 演習 a，情報セキュリティ a，経営学総論，ビジネスキャリアⅠ a・Ⅰ b，および学科共通科目群Ⅰの選択必修科目である Fundamentals of EnglishⅠ，Oral FluencyⅠ，English for Advanced Studies a・b，English for Specific Purposes a・b（外国人留学生・帰国生は，日本語中上級科目，日本語上級科目）のうち4単位
- ② 総修得単位数が16単位

#### (2) 2年次から3年次：

- ① 1，2年次の必修科目である経営情報基礎論 a・b，ICT 演習 a，情報セキュリティ a，経営学総論，ビジネスキャリアⅠ a・Ⅰ b，Ⅱ a・Ⅱ b，および学科共通科目群Ⅰの選択必修科目である Fundamentals of EnglishⅠ，Oral FluencyⅠ，English for Advanced Studies a・b・c，English for Specific Purposes a・b・c（外国人留学生・帰国生は，日本語中上級科目，日本語上級科目）のうち14単位
- ② 総修得単位数が50単位

※但し，①の条件を満たし総修得単位数が40単位～49単位の者については，進級判定の対象

となり、教授会で審議の結果、許可された学生のみ進級することができる。

(3) 3年次から4年次：82単位

## 2. 各学年における標準的な修得単位

各学年における授業科目および修得単位数の目安は、次の表に示すとおりである。

また、各学期の履修登録については30単位までとし、年間の履修登録については42単位以下とする。GPAが3.00以上の者には、アドバイザーに相談したうえで最大49単位まで履修することを認めることがある。

各学期のGPAが1.50未満の場合には、アドバイザーの履修指導を受けなければならない。

学年	単位数の目安	
1年次	学科共通科目群Ⅰ（語学） Fundamentals of English I, Oral Fluency I, English for Advanced Studies a・b, English for Specific Purposes a・b（選択必修）、日本語中上級科目・日本語上級科目（外国人留学生・帰国生選択必修） 学科共通科目群Ⅱ（経営情報） 経営情報基礎論 a（必修）、経営情報基礎論 b（必修） ICT演習 a（必修）、情報セキュリティ a（必修） 経営学総論（必修） 学科共通科目群Ⅳ（教養） キャリア形成科目群 ビジネスキャリアⅠ a（必修）、ビジネスキャリアⅠ b（必修） 専門基礎科目群	2科目4単位  5科目10単位  5科目10単位 2科目2単位 6科目12単位
修得単位数 35～40単位		
2年次	学科共通科目群Ⅰ（語学） 英語科目、英語以外の外国語科目（選択必修）、日本語中上級科目・日本語上級科目（外国人留学生・帰国生選択必修） キャリア形成科目群 ビジネスキャリアⅡ a（必修）、ビジネスキャリアⅡ b（必修） 専門基礎科目群 専門科目群Ⅰ	2科目4単位  2科目2単位  2科目4単位 5科目10単位
修得単位数 35～40単位	※上記指定された科目群より修得した科目以外に18単位	
3年次	キャリア形成科目群 専門科目群Ⅰ 専門科目群Ⅱ（ゼミ研究・実践）	1科目2単位 7科目14単位 2科目4単位
修得単位数 35～40単位	※上記指定された科目群より修得した科目以外に18単位	
4年次	専門科目群Ⅱ（ゼミ研究・実践）	2科目4単位
修得単位数 4～10単位	※上記指定された科目群より修得した科目以外に6単位	
卒業 修得単位数 124単位		

## Ⅶ 授業科目の学年配当と履修すべき単位数

### 1. 学科共通科目群

学科共通科目群は、学科共通科目群Ⅰ（語学）、学科共通科目群Ⅱ（経営情報）、学科共通科目群Ⅲ（メディア）、学科共通科目群Ⅳ（教養）、学科共通科目群Ⅴ（スポーツ科学）の五系列に分かれている。それらの各系列の中から「Ⅴ. 卒業に必要な単位について」で示された所定の単位以上を修得するために、科目を履修し、卒業要件を満たさなければならない。

#### (1) 学科共通科目群Ⅰ（語学）

科目群	科目名	配当年次	単位数			最低修得単位数	備考
			必修	選択	自由		
学科共通科目群Ⅰ (語学)	Fundamentals of English I	1		2		8単位	学科共通科目群Ⅰのうち、Fundamentals of English I, Oral Fluency I, English for Advanced Studies a・b・c, English for Specific Purposes a・b・cより4単位以上を含み8単位以上修得すること。なお、「English for Advanced Studies a」から「English for Specific Purposes c」までの6科目は、優れた英語力を有すると認められた者のみが履修できる科目である。
	Oral Fluency I	1		2			
	Fundamentals of English II	1・2		2			
	Oral Fluency II	1・2		2			
	English for Advanced Studies a	1・2		2			
	English for Specific Purposes a	1・2		2			
	English for Advanced Studies b	1・2		2			
	English for Specific Purposes b	1・2		2			
	English for Advanced Studies c	2・3		2			
	English for Specific Purposes c	2・3		2			
	日本語中上級 a（総合）	1・2・3・4		2			
	日本語中上級 b（受容）	1・2・3・4		2			
	日本語中上級 c（口頭産出）	1・2・3・4		2			
	日本語中上級 d（筆記産出）	1・2・3・4		2			
	日本語中上級 e（言語知識）	1・2・3・4		2			
	日本語中上級 f（聴解）	1・2・3・4		2			
	日本語中上級 g（読解）	1・2・3・4		2			
	日本語上級 a（総合）	1・2・3・4		2			
日本語上級 b（映像作品の日本語）	1・2・3・4		2				

\*の科目は指定された交換留学生・短期留学生のみ履修できる。

科目群	科目名	配当年次	単位数			最低修得単位数	備考
			必修	選択	自由		
学科共通科目群Ⅰ（語学）	日本語上級 c (現代文章を読む)	1・2・3・4		2		8 単位	
	日本語上級 d (口頭発表)	1・2・3・4		2			
	日本語上級 e (論文作成)	1・2・3・4		2			
	ビジネス日本語Ⅰ	1・2・3・4		2			
	ビジネス日本語Ⅱ	1・2・3・4		2			
	Basic Writing Skills	1		2			
	Intermediate Practical Discussion Skills	1		2			
	Intermediate Reading Skills	2		2			
	Intermediate Writing Skills	2		2			
	Intermediate Grammar	1・2		2			
	Oral FluencyⅢ	1・2		2			
	Advanced Practical Discussion Skills	3・4		2			
	Advanced Reading Skills	3・4		2			
	Oral FluencyⅣ	3・4		2			
	English Pronunciation	3・4		2			
	TOEIC: VocabularyⅠ	1・2		2			
	TOEIC: VocabularyⅡ	2・3		2			
	TOEIC: Grammar & ListeningⅠ	1・2		2			
	TOEIC: Grammar & ListeningⅡ	2・3		2			
	Spoken Business English	3・4		2			
	Business English Writing	3・4		2			
	日本語基礎表現法	2・3		2			
	ドイツ語ⅠA	1		2			
	ドイツ語ⅠB	1		2			
	ドイツ語Ⅱ	2・3		2			
	フランス語ⅠA	1		2			
フランス語ⅠB	1		2				
フランス語Ⅱ	2・3		2				
フランス語Ⅲ	2・3		2				

科目群	科目名	配当年次	単位数			最低修得単位数	備考
			必修	選択	自由		
学科共通科目群 I (語学)	スペイン語 I A	1		2		8 単位	
	スペイン語 I B	1		2			
	スペイン語 II	2・3		2			
	中国語 I A	1		2			
	中国語 I B	1		2			
	中国語 II	2・3		2			
	中国語 III	2・3		2			
	韓国語 I A	1		2			
	韓国語 I B	1		2			
	韓国語 II	2・3		2			
	韓国語 III	2・3		2			
	Basic Japanese a *	1・2・3・4		4			
	Basic Japanese b *	1・2・3・4		4			
	Basic Japanese c *	1・2・3・4		4			
	Basic Japanese d *	1・2・3・4		4			
	Japanese Language Proficiency Test a (Knowledge) *	1・2・3・4		2			
	Japanese Language Proficiency Test b (Comprehension) *	1・2・3・4		2			
Intermediate Japanese a *	1・2・3・4		4				
Intermediate Japanese b *	1・2・3・4		4				

## 〔備考〕

- (1) 学科共通科目群 I では第一外国語として英語（外国人留学生・帰国生徒は日本語）を学ぶ。うち Fundamentals of English I, Oral Fluency I, English for Advanced Studies a・b・c, English for Specific Purposes a・b・c（日本語は日本語中上級科目・日本語上級科目）は選択必修科目である。
- (2) Fundamentals of English II, Oral Fluency II を履修するためにはそれぞれの I を修得していること。
- (3) 英語選択科目を履修する場合は、年度末に実施する英語プレズメントテストを受けること。
- (4) 第 2 外国語において I B を履修するには I A を修得していなければならない。

## (2) 学科共通科目群Ⅱ（経営情報）

科目群	科目名	配当年次	単位数			最低修得単位数	備考
			必修	選択	自由		
学科共通科目群Ⅱ（経営情報）	経営情報基礎論 a	1	2			10単位	学科共通科目群Ⅱのうち、必修科目を含み、10単位以上修得すること。
	経営情報基礎論 b	1	2				
	ICT 演習 a	1	2				
	ICT 演習 b	1		2			
	情報セキュリティ a	1	2				
	経営学総論	1	2				

## (3) 学科共通科目群Ⅲ（メディア）

科目群	科目名	配当年次	単位数			最低修得単位数	備考
			必修	選択	自由		
学科共通科目群Ⅲ（メディア）	メディア概論 A 1	1		2			
	メディア概論 A 2	1		2			
	メディア概論 B	1・2		2			
	メディア概論 C	1・2		2			
	メディア概論 D	1・2		2			
	メディア概論 E	1・2		2			

## (4) 学科共通科目群Ⅳ（教養）

科目群	科目名	配当年次	単位数			最低修得単位数	備考
			必修	選択	自由		
学科共通科目群Ⅳ（教養）	倫理学概論	1・2		2		10単位	学科共通科目群Ⅳのうち、10単位以上修得すること。
	法学概論	1・2		2			
	日本国憲法	1・2		2			
	政治学	2・3		2			
	現代社会論	1・2		2			
	心理学	1・2		2			
	データ分析の基礎 （線形代数）	1・2		2			
	基礎の数学	1・2		2			
	自然科学概論	1・2		2			
	外国史概説	2		2			
	日本の歴史 a	1・2		2			

科目群	科目名	配当年次	単位数			最低修得単位数	備考
			必修	選択	自由		
学科共通科目群Ⅳ (教養)	日本の歴史 b	1・2		2		10単位	
	地理学 a	2		2			
	地理学 b	2		2			
	地誌	3		2			
	宗教学概論	1・2・3		2			
	異文化適応論	1・2		2			
	情報表現技法	1・2		2			
	テレビ番組史	1・2		2			
	映像研究	2・3		2			
	経済学の基礎	1		2			
	情報社会論	1		2			
地球環境論	1・2		2				

## (5) 学科共通科目群Ⅴ (スポーツ科学)

科目群	科目名	配当年次	単位数			最低修得単位数	備考
			必修	選択	自由		
学科共通科目群Ⅴ (スポーツ科学)	スポーツ科学Ⅰ a	1		1		教職課程を履修する者が優先される。	
	スポーツ科学Ⅰ b	1		1			
	スポーツ科学Ⅱ a	2		1			
	スポーツ科学Ⅱ b	2		1			

〔備考〕

- (1) スポーツ科学Ⅰ a, Ⅰ b を修得していなければ, スポーツ科学Ⅱ a, Ⅱ b を履修することが出来ない。



## 2. キャリア形成科目群

科目群	科目名	配当年次	単位数			最低修得単位数	備考
			必修	選択	自由		
キャリア形成科目群	ビジネスキャリアⅠ a	1	1			6 単位	キャリア形成科目群のうち、必修科目を含み6単位以上修得すること。外国人留学生・帰国生は、必修科目を含み4単位以上を修得すること。
	ビジネスキャリアⅠ b	1	1				
	ビジネスキャリアⅡ a	2	1				
	ビジネスキャリアⅡ b	2	1				
	ビジネスキャリア実践	2・3		2			
	インターンシップ	2・3		2			
	海外ビジネス研修Ⅰ	1・2		2			
	海外ビジネス研修Ⅱ	1・2		2			
	海外ビジネス研修Ⅲ	2・3		2			
	海外ビジネス研修Ⅳ	2・3		2			

## 3. 専門基礎科目群, 専門科目群Ⅰ, 専門科目群Ⅱ (ゼミ研究・実践), 専門科目群Ⅲ (教職関連)

本学部ではコース制を導入しており、その中で東金キャンパスでは3つの分野に分かれ、それぞれの専門領域となるゼミで研究を深めることになる。1年次の基礎教育と「ビジネスキャリアⅠ a, Ⅰ b」, 2年次の「ビジネスキャリアⅡ a, Ⅱ b」と段階的に学び、語学科目、情報系科目、専門基礎科目群、専門科目群の科目を計画的に履修し、ビジネスツールと国際教養を身に付けて専門領域の研究「ゼミナール (a～e)」に進むことになる。

## 東金キャンパス&lt;スポーツ・公共マネジメントコース&gt;

企業の様々な分野で活躍できる人材、地域や公共分野で活躍できる人材、保健体育における教育人材、スポーツ自体やスポーツビジネスの分野で活躍できる人材になるための準備を行う。そのために各分野で体系的に学んでいく。また、様々なプロジェクトを通して実践的・体験的な学習により、グローバル化とデジタル化の加速する社会に適応できる地域の活性化に貢献する人材を育成する。

## (1) グローバルビジネス分野

この分野では、企業経営の基本となるマーケティング、簿記、会計、IT技術分野など経営分野全般を広く学びながら、地域貢献活動や地域経済活性化を意識しながらマネジメント力と実践力を身につけていく。また、海外からの留学生たちと共にキャンパスで学んでいくことを通して、異文化間コミュニケーション力の実践力を高めながら、国内外を問わずに活躍できる人材を目指す。特に日本における国際航空物流の一大拠点となる成田国際空港並に隣接した東金キャンパスでは、航空ビジネス、航空物流も学びながら国際ビジネスを学び、国境や民族、宗教、文化を問わずに自ら判断し行動できる人材を目指す。

## (2) スポーツマネジメント分野

この分野は、スポーツ理論やスポーツ科学、スポーツ経営学の知識を幅広く身に付け、それらを応用し、企業や地域で活躍できる人材を育成する。特に、1年次から英語、スポーツ関連専門科目、教職に関する科目を修得する履修計画を立て、語学力、教師力のある保健体育教員を目指すと同時に、スポーツ指導者・スポーツリーダーの資質を養い、スポーツ業界で、スポーツクラブ等の管理・運営もできるマネジメント力のある人材を育成する。また、スポーツビジネスは、今や世界を舞台に展開され、その共通語は英語になっているため、1年次から英語力を身に付けて、国際社会においてスポーツビジネスを展開できる人材の育成を目指す。

## (3) 地域公共マネジメント分野

この分野は、公務員試験合格を目指しながら、経営、経済、法律、環境などを幅広く学び、地域の課題を解決でき、地域社会に貢献できるチカラを身につける。そして、多様な人々と協働してより良い公共サービスや地域創生を実現できる人材の育成を目指す。

各分野に分かれて学習する上で、1・2・3年次に修得しておくことが望ましい科目を分野推奨科目としている。学部必修科目と併せて履修計画を立ててもらいたい。科目の詳細についてはオリエンテーション、「ビジネスキャリアⅠa・b」の授業で説明する。以下に、分野推奨科目の一部を紹介する。

## &lt;東金キャンパス&gt;

(1) グローバルビジネス分野	(2) スポーツマネジメント分野	(3) 地域公共マネジメント分野
第二外国語 マーケティング論 マーケティングリサーチ 国際経営論 会計学Ⅰ 英語科目など	生涯スポーツ概論 スポーツ科学Ⅰa スポーツ科学Ⅰb スポーツ社会学など	日本国憲法 経済原論a 経済原論b 政治学など

科目群	科目名	配当年次	単位数			最低修得単位数	備考
			必修	選択	自由		
専門基礎科目群	企業と社会	1		2		16単位	専門基礎科目群のうち、16単位以上を修得すること。
	デジタルマーケティング	2・3		2			
	マーケティング論	1・2		2			
	マーケティングリサーチ	1・2・3		2			
	流通論	2・3		2			
	ロジスティクス概論	1・2		2			
	初級簿記	1・2		2			
	中級簿記	1・2		2			
	会計学Ⅰ	1・2		2			
	会計学Ⅱ	1・2		2			
	経済原論 a	1・2・3		2			
	経済原論 b	1・2・3		2			
	消費生活と行政	1・2		2			
	情報システム論	2		2			
	情報化戦略とマネジメント a	1・2		2			
	情報学演習 a	1・2		2			
	情報学演習 b	1・2		2			
	情報理論	1		2			
	情報ネットワーク論	2		2			
	生涯スポーツ概論	1・2		2			
スポーツ社会学	1・2・3		2				
食と健康	1・2		2				
社会調査	2・3		2				
環境生態学	2		2				

## 4. 専門科目群

## (1) 専門科目群 I

科目群	科目名	配当年次	単位数			最低修得単位数	備考
			必修	選択	自由		
専門科目群 I	経営戦略論	2・3		2		24単位	専門科目群 I のうち、24単位以上を修得すること。ただし、体づくり運動、水泳、柔道など追記事項で*印の付く体育実技科目は、教職課程（保健体育）を履修する者が優先される。また、*印の付く体育実技科目のうち、ダンスと水泳は、教職課程（保健体育）を履修する者に加えて、健康運動実践指導者資格取得希望者が優先される。
	経営管理総論	2・3		2			
	人事労務管理論	2・3		2			
	経営組織論	2・3		2			
	中小企業論	3・4		2			
	企業倫理論	2・3		2			
	情報化戦略とマネジメント b	2		2			
	ビジネスデータ分析 a (Excel)	2・3		2			
	起業マネジメント論	3・4		2			
	事業と継承	2・3		2			
	国際経営論	3・4		4			
	消費者行動論	3・4		2			
	国際マーケティング論	2・3・4		2			
	地域振興論	2・3		2			
	ミクロ経済学	3		2			
	マクロ経済学	3		2			
	国際経済学	2・3・4		2			
	財政学	3・4		2			
	金融論	2・3		2			
	ファイナンシャルプランニング論 a	2・3		2			
	ファイナンシャルプランニング論 b	2・3		2			
	データベース	2		2			
アルゴリズム a	2		2				
プログラミング a	2		2				
健康管理概論	2		2				
スポーツビジネス論	2・3		2				
スポーツ栄養学	2		2				
心と身体の科学	2		2				

科目群	科目名	配当年次	単位数			最低修得単位数	備考
			必修	選択	自由		
専門科目群 I	運動生理学	2		2		24単位	
	スポーツ医学	3		2			
	スポーツ心理学	2		2			
	救急処置（実習を含む）	2		2			
	スポーツ経営学	2・3		2			
	スポーツと地域振興	3		2			
	健康運動指導法（実習を含む）	3		2			
	体力トレーニング実習	3		1			
	解剖生理学	2		2			
	衛生・公衆衛生学	3		2			
	学校保健学	3		2			
	地域スポーツマネジメント論	3		4			
	体育史	2・3		2			
	運動学（運動方法学を含む）*	2・3		2			
	体づくり運動*	2		1			
	器械運動*	2・3		1			
	陸上競技*	2・3		1			
	水泳*	2・3		1			
	サッカー*	2・3		1			
	バレーボール*	2・3		1			
	バスケットボール*	2・3		1			
	ソフトボール*	2・3		1			
	柔道*	2・3		1			
	ダンス*	2・3		1			
	スキー*	2・3		1			
	民法 a	2・3		2			
	民法 b	2・3		2			
	商法 a	2・3		2			
商法 b	2・3		2				
会社法 a	2・3・4		2				
会社法 b	2・3・4		2				

科目群	科目名	配当年次	単位数			最低修得単位数	備考
			必修	選択	自由		
専門科目群 I	税法 a	3・4		2		24単位	
	税法 b	3・4		2			
	国際法	3・4		4			
	環境と食文化	2・3		4			
	環境政策論	2・3		2			
	地域生態系保全論	2		2			
	アロマセラピー	2・3		4			
	食と緑のマネジメント論	2・3		2			
	Business and Society	3・4		2			
	Introduction to Database Theory	3・4		2			
	Introduction to Global Management	1・2・3		2			
	Strategic Management	3・4		2			
	International Marketing	3・4		2			
	統計学	2・3		2			

## (2) 専門科目群Ⅱ（ゼミ研究・実践）

科目群	科目名	配当年次	単位数			最低修得単位数	備考
			必修	選択	自由		
専門科目群Ⅱ (ゼミ研究・実践)	ゼミナール a	3	2			8 単位	専門科目群Ⅱのうち、必修科目6単位を含み8単位以上を修得すること。ゼミナール d あるいはゼミナール e のいずれか1科目2単位を必ず修得すること。ゼミナール a から e は、同じ学期に2つ以上の科目を同時に履修することはできない。*の科目は指定された学生のみ履修できる。
	ゼミナール b	3	2				
	ゼミナール c	3・4	2				
	ゼミナール d	3・4		2			
	ゼミナール e *	3		2			
	プロジェクト研究 a	1・2・3・4		2			
	プロジェクト研究 b	1・2・3・4		2			

## (3) 専門科目群Ⅲ（教職関連）

科目群	科目名	配当年次	単位数			最低修得単位数	備考
			必修	選択	自由		
専門科目群Ⅲ (教職関連)	教育原理	2			2	専門科目群Ⅲ（教職関連）は。*の科目を除き、卒業単位に含まれない。*の科目はそれぞれの教科の教職課程を登録している者のみ履修できる。	
	教育課程論	1			2		
	教職論	1			2		
	教育心理学	2			2		
	教育制度	2			2		
	教育方法論	2・3			2		
	社会科教育法Ⅰ*	3			2		
	社会科教育法Ⅱ*	3			2		
	社会科教育法Ⅲ*	3			2		
	社会科教育法Ⅳ*	4			2		
	公民科教育法Ⅰ*	3			2		
	公民科教育法Ⅱ*	3			2		
	保健体育科教育法Ⅰ*	3			2		
	保健体育科教育法Ⅱ*	3			2		
	保健体育科教育法Ⅲ*	3			2		
	保健体育科教育法Ⅳ*	4			2		
	道徳教育の理論と方法	1			2		
	特別活動論	2			2		
	生徒指導（進路指導の理論および方法を含む）	2			2		
	教育相談（カウンセリングを含む）	3			2		
	介護等体験	3			2		
教育実習Ⅰ（事前及び事後指導を含む）	4			3			
教育実習Ⅱ	4			2			
教職実践演習（中・高）	4			2			
特別のニーズ教育論	2			2			
総合的な学習の時間の指導法	2			2			



## VIII 履修申請について

各年次において履修しようとする科目は、指定された期日に、所定の方法（オリエンテーションで説明する）で履修申請をしなければならない。履修申請は、希望する授業を受講し、その単位を取得するための重要な手続きである。進級や卒業に影響をおよぼすこともあるので、以下の注意事項を厳守し、慎重に履修申請をすること。

- (1) 履修申請をしていない（できていない）科目は、受講しても単位が認められない場合もある。履修を最終的に確定する前に、時間割表をもう一度確認するなど、細心の注意を払うこと。なお、履修照合期間には、希望どおり登録されているかを必ず確認すること。
- (2) 履修を計画する際には、1年間の受講計画をたてること。また、進級や卒業に必要な単位の算定を慎重に行い、修得単位数が不足しないように万全を期すこと。
- (3) 同一の時限に2つ以上の科目を履修することはできない。
- (4) 一度単位を修得した科目は、再度履修することはできない。
- (5) Web履修入力の際、一定の時間を経過するとタイムアウトとなる可能性があるため、登録する講義や時間割の下書き等の準備をしてから入力すること。
- (6) 履修申請は、指定された期間以外に手続することができない。入力期限を厳守すること。
- (7) 履修や留学等についての疑問・質問等は、それぞれのアドバイザーもしくは、学部事務室に相談すること。

## IX 再履修について

履修した科目の単位が取得できなかった場合は、次年度または次学期において再び履修することができる。

## X 試験について

### 1. 定期試験および臨時試験

- (1) 試験は、定期試験と臨時試験があり、定期試験は原則として学期末あるいは学年末に行い、臨時試験は担当教員の判断により適宜行われる。
- (2) いずれの授業科目も授業時数の1/3以上欠席した場合には、原則として当該授業科目の受験資格を失う。欠席と公欠の詳細については、本学生便覧の「学生生活のしおり 授業関係」ページに記載されているので、必ず確認すること。なお、就職活動に伴う欠席については、本学部では以下の通りに扱う。

#### ・就職活動に伴う欠席

就職活動のための授業の欠席は、公欠にはならない。欠席をどのように配慮するかは各授業担当教員の判断に任されているが、原則として①就職試験、②選考の必須条件となっている会社説明会、③正式な内定式、がその配慮の対象となりうる。また、欠席、公欠、及び就職活動に伴う欠席を含めて総授業回数の半分以上を欠席した場合は、原則として当

該授業科目の受験資格を失う。

手続きの方法は、就職活動証明書（出席証明書）の所定欄に企業等の採用担当者から署名頂いたものを就職センターに提出し、その後、就職センターで検印を受けた授業欠席届を各授業担当教員に提出する。なお、就職活動証明書（出席証明書）および授業欠席届は JIU Portal からダウンロードするか、就職センター窓口で受け取ること。

- (3) 試験の時間割は掲示・大学 Web サイトにより連絡する。
- (4) 授業科目によっては論文（レポート）提出によって試験に代える場合がある。

## 2. 追 試 験

- (1) 追試験は、やむを得ない事情によって定期試験を受験できなかった者に対し、原則として学期末または学年末に実施する。
- (2) 追試験を希望する者は、正当な事由を証明する書面をもって速やかに授業担当教員に届け出ること。
- (3) 追試験は、成績表の当該科目に「T」の表示がなされた場合に限り受験することができる。

なお、追試験は、履修（再履修を含む）した年度に限り受験することができる。

- (4) 追試験を受験しようとする者は、「追試験受験願」を学部事務室に提出しなければならない。

なお、追試験の受験料は、1科目につき200円である。

## 3. 再 試 験

- (1) 再試験は、原則として学期末または学年末に実施する。ただし、授業科目によっては再試験を行わない場合もある。
- (2) 定期試験の結果、不合格（この場合成績表の当該科目に「F」の表示がなされる）となった授業科目のある者は、当該授業科目の担当教員が再試験を行なう場合、受験することができる。

なお、再試験は、履修（再履修を含む）した年度に限り受験することができる。

- (3) 再試験の受験を許可された者は、「再試験受験願」を学部事務室に提出しなければならない。

なお、再試験の受験料は、1科目につき1,000円である。

## 4. 試験に関する注意

### 1. 通 則

- (1) 試験場内では、すべて監督者の指示に従わなければならない。なお、監督者の指示に従わない者には、退場を命ずることがある。
- (2) 試験場内では、筆記用具・持込みを許された資料以外のものは、すべて監督者の指定する場所におかななければならない。
- (3) 受験者は学生証および受験許可証（追・再試験の場合）を、机の上の見やすい場所に提示しておかななければならない。

- (4) 試験開始から20分を経過した後は入室・受験を認めない。
- (5) 試験開始から25分を経過するまでは退場を認めない。なお、監督者が退場を命ずる場合はこの限りではない。
- (6) 受験者は、試験中監督者の許可を得ないで試験場を出てはならない。
- (7) 試験の行われる学期の授業料未納の者・授業時数の1/3以上欠席した者は、試験を受けることができない。
- (8) 病気・事故その他正当な事由によって受験できなかった者は、診断書・事故証明その他正当な事由を証明する書面を添えて、遅滞なく授業担当教員に届出なければならない。

## 2. 試験における不正行為の懲戒について

- (1) 不正行為をした者については、学則第68条により罰せられ、更に年度における当該授業科目の単位の認定を行わない。  
また、不正行為を行った学期に履修している全ての科目の単位の認定しない場合がある。
- (2) 不正行為のあった者の懲戒処分については、教授会の審議を経て、学長が決定する。
- (3) 学長はその旨保証人を召喚して通知すると共に学内にこれを公示する。

## 3. 試験における不正行為とは

- (1) 他の人から答えを教わることや、教えること等、いわゆるカンニング及びその手助けをすること。
- (2) 本人以外の名前・学籍番号で受験すること。
- (3) 許可されていないものを使用すること。
- (4) 「解答はじめ」の前、及び「解答おわり」の後に、試験監督の指示に従わず、解答を続けること。
- (5) その他、試験監督の指示に従わないこと。
- (6) 論文・レポート等における、剽窃行為をすること。

※ 剽窃行為…引用の形式をとらず、著作権者に無断で著作物を複製・転載する行為。  
学術上のルール・モラルに反する行為であり、著作権法に違反する行為。

# XI 授業科目の単位認定と進級及び留年

## 1. 単位認定

- (1) 各科目の成績は、シラバス記載の成績評価基準に基づき総合的に判定する。
- (2) 100点を満点とし、60点以上をもって単位修得（合格）とする。  
その評価は次に従う。

評価	得点分布
S	100点～90点
A	89点～80点
B	79点～70点
C	69点～60点

- (3) 再試験における評価は60点を合格とし、79点を上限とする。
- (4) 再試験における成績評価の最高点は、定期試験合格者の成績評価の最低点を上回らないものとする。

## 2. 進級及び留年

- (1) 各年次への進級については、「Ⅵ 進級条件及び各学年における標準的な修得単位1. 進級条件」に示された進級条件を満たした場合に可能となる。
- (2) 4年次で卒業要件を満たさない者は留年とする。

## XII 成績発表

- (1) 成績発表は、アドバイザーまたはゼミナール担当教員より本人に成績表を交付するので、学部事務室の指示に従って必ず交付を受けること。その際、学生証を提示すること。  
なお、指定された期日以外には交付しない。
- (2) 成績の評価は次の記号で表わし、60点以上をもって単位取得（合格）とする。
- | （合格）      | （正規試験不合格）       | （追・再試験不合格） |
|-----------|-----------------|------------|
| S：100～90点 | F：59点以下（再試験受験可） | D：59点以下    |
| A：89～80点  | T：追試験受験可        | E：未受験      |
| B：79～70点  | Z：追・再試験の受験資格なし  |            |
| C：69～60点  | 評価不能            |            |
- (3) 成績表には、学習成果を総合的に推し量る指標 GPA（Grade Point Average）を表記している。  
詳細については、Web履修登録画面にて確認すること。
- (4) 成績についての疑問、質問等は成績表交付日のみ受け付けるので、学部事務室に問い合わせること。
- (5) 事故、病気等により指定日に成績表の交付を受けられない場合は、代理人を定め、成績表の交付を受けること。その場合は代理人学生証および委任状を持参すること。